

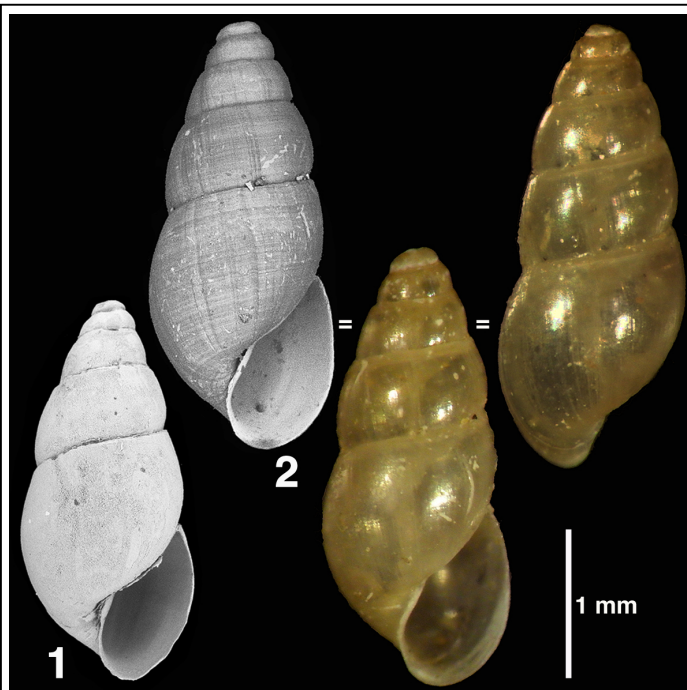
ヌカルミクチキレ "*Sayella*" sp.

【選定理由】

本種は和田ら(1996)で和名だけが提唱された未記載種である。内湾奥の泥干潟にヨコイトカケギリ(トウガタガイ科)やカワグチツボ、エドガワミズゴマツボと共に生息する。三河湾、伊勢湾の干潟から潮下帯に広く分布するヨコイトカケギリと比べて、本種は生息範囲が狭く、県内では汐川干潟の奥部の泥干潟でのみ生息が確認されているにすぎなかった(藤岡・木村,2000)。その後、伊勢湾沿岸庄内川河口(木村,2010)、三河湾沿岸河和(早瀬・木村,2017)などで本種の生貝や死殻が確認されている。本種は未記載種であるが、県内における前述のような生息環境は比較的調査が行われている。しかし、本種の生息地は少なく生息面積も小さく、個体数も少ない。絶滅の可能性が高い種であると評価された。

【形態】

殻長約4mmの微小種。殻は細い紡錘形、黄褐色で成長脈は弱く、光沢が強い。殻口軸唇には弱い襞が1本ある。同所的に生息するカワグチツボとは一見よく似ているので、混同されやすいが、本種はさらに小型で殻表が平滑で光沢があるので区別は容易である。



1: 南知多町河和, 2014年5月16日, 早瀬善正採集, 2: 豊橋市汐川干潟, 1995年8月3日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息場所は限られていて、生息が確認される場所は少ないが、汐川干潟では健全な個体群の生息が確認されている。美浜町布土(河合,1998)からも死殻が記録された。

【世界及び国内の分布】

未記載種であり日本でのみ記録されている。日本では陸奥湾、尾駱沼、小川原湖、志津川湾、浜名湖、三河湾、伊勢湾、田辺湾、和歌、徳島県阿南市、周防灘西部、宮崎市一ツ葉入り江、中海、油谷湾、天草等に分布する(福田・久保,2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように県内では、内湾干潟は比較的調査が進んでいるが、生息地は非常に少ない。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 藤岡えり子・木村妙子, 2000. 三河湾奥部汐川干潟の1998年春期における底生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 10: 31-39.
- 福田 宏・久保弘文, 2012. ヌカルミクチキレ, p. 88. in: 日本ベントス学会(編)干潟の絶滅危惧動物図鑑-海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 早瀬善正・木村昭一, 2017. 河和(三河湾)の内湾潮間帯の貝類相. ちりぼたん, 47(1-4): 28-42.
- 河合秀高, 1998. 内湾性稀少種サザナミツボの新産地. かきつばた, (24): 16-17.
- 木村昭一, 2010. ヌカルミクチキレ, p. 208. in: レッドデータブックなごや2010(2004年版補遺), 316pp. 名古屋環境局.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)